

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	30 (11) 33 (12)	利用者のレベルが低下しつつあるが、重度化した場合のサービス内容に限度があるため、利用者や家族の想いに応えられない事がある。	職員の資質の向上とマニュアル作成にて重度化した場合や状態変化時に的確に対応できるようにする。また、重症度にあった環境の必要性を提示し、ホーム内の環境面の充実を図り、対応できる幅を広げる。	①痰吸引の研修へ参加できるようにする。 ②年に1回は、看護面の勉強会の場を設定する。 ③担当者会議や状態変化の際に、その都度重度化した場合のご意向を確認しておく。 ④重度な対象者があった場合は、具体的に必要な対応マニュアル作成を行っていく。	12ヶ月
2	35 (13)	災害に対しての備蓄品の定期的な見直しや補充ができていない。また、歩行困難な方の救助方法に不安がある。	備蓄品の確保と定期的な見直し・補充にて災害時の安心につなげる。歩行困難な方の救助方法については、常に緊急時の対応を想定して、各自冷静に対応できるようにしておく。	①備蓄品のリストを作成し、月に1度食料の消費期限の確認を行い、消防訓練日に食して入れ替えをする。 ②歩行困難な方のスムーズな救助方法について話し合い、細かなマニュアル作成を行う。	12ヶ月
3	10 (6)	ご家族等からの意見や要望等を引き出せるよう目安箱を設置しているが、活用に至っておらず、また真のご意見等を伺える場の設定作りが実施できていない。	ご家族がご意見や要望などを気軽に話せるような機会をもうけ、マンネリ化しつつある運営面に反映させていく。	①新しいご家族の方にも「はっぴーになる一言箱」を積極的に活用していただけるよう啓蒙し、ご意見を伺っていく。 ②来年度は全利用者のご家族に参加していただけるような場を設け、ご意見等をご自由に語っていただけるようにする。 ③職員がご家族にお尋ねしたい内容を事前に話し合い、アンケートを作成し、ご協力をお願いする。	12ヶ月
4	39 (15)	自分の事は自分でという思いを汲み取れず、職員が手伝う事で、利用者の力を発揮できる機会や自立心を取り上げてしまっている。	利用者一人ひとりの残存機能を把握し、その方が持っている最大限の力を発揮・維持できるような支援を行う。	①利用者一人ひとりの残存機能を把握し、個々の力に応じた作業を行ってもらう。 ②利用者が最大限に能力を発揮できるように、利用者がしようとされることはできる限り見守り、失敗されそうなことや困難なことをそっと支援できるような対応を話し合っていく。	6ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。